

「オープンデータ利活用セミナー」開催報告

中国情報通信懇談会は、令和4年8月24日(水)、中国総合通信局及び(一社)中国経済連合会との共催により、「中国地域オープンデータ利活用ラウンドテーブル」の令和4年度第一回の会合として、「オープンデータ利活用セミナー」を開催しました*。

※：中国総合通信局の会議室からZoomウェビナーで配信。

当日は、広島県土木建築局の岡崎主査と静岡県交通基盤部の杉本課長代理にお越しいただき、情報通信懇談会会員の民間企業や地方公共団体等から参加された65名に対してご説明をいただきました。概要は次のとおりです。

- ◆ 相原運営委員長 開会挨拶：オープンデータ利活用ラウンドテーブルでは、オープンデータの具体的な活用分野として、防災・減災を取り上げています。オープンデータは、災害発生時はもちろん、復旧段階においても威力を発揮すると考えています。本日の紹介事例はこれに合致しており期待しています。



- ◆ 事例紹介1では、広島県 土木建築局 建設DX担当 岡崎主査から、「広島県が進める建設DX「DoboX」の紹介～広島デジフラ構想に掲げる取組～」と題して、令和4年6月に運用が開始された、「広島デジフラ構想」の具体的な取組の一つであるオープンデータのインフラマネジメント基盤「DoboX」とその関連施策をご紹介いただきました。



- ◆ 事例紹介2では、静岡県 交通基盤部 政策管理局 建設政策課 未来まちづくり室 杉本課長代理から、「静岡県が進めるVIRTUAL SHIZUOKA構想とは？」と題して、3次元点群データを活用した熱海市伊豆山地区の土石流災害における初動対応や災害シミュレーションをはじめ、自動運転やバーチャル観光等への活用事例を紹介しながら、静岡県が点群データのオープンデータ化により何を狙っているのかなどについてご説明いただきました。



- ◆ 参加者からは、「オープン化に当たり、『信頼性は低いリアルタイムのデータ』と『信頼性が高いスタティックなデータ』のどちらを優先するかなど、データの整理や属性を付ける議論(検討)はなされたのか。」「運営主体、経費負担は県が行っているのか。」等の質問があり、これに対して、説明者が適宜回答するなど、積極的な意見交換が行われました。

- ◆ 中国総合通信局 川崎情報通信部長 閉会挨拶：二つの事例を聴講して、オープンデータが、当然ながら、商用・非商用を問わず誰でも自由に利用できること、そして、今後、様々な分野での展開が期待できると実感しました。ラウンドテーブルでは引き続き、オープンデータに関する様々な場所での取組み状況や、自治体のオープンデータの進捗状況や問題点などについて、情報共有や意見交換を図り、その取組を加速していきたいと考えています。

